

岩井克巳さん(右)から説明を聞きながら、海の生き物に触る中学生たち。大阪府貝塚市の二色の浜、小林裕幸撮影

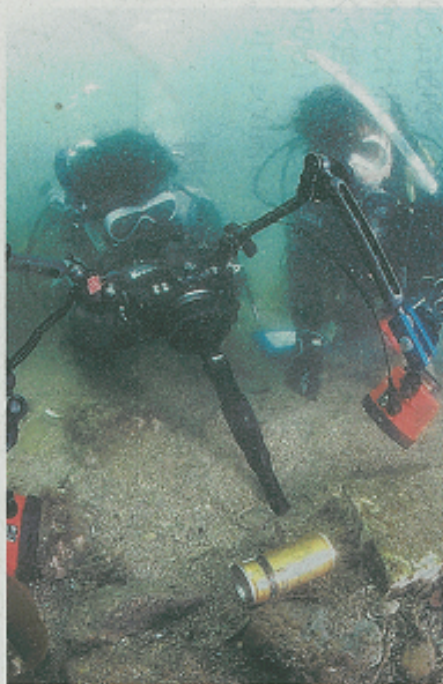


息づく大阪湾 触って

ダイバーら学びの輪

ここ30年ほどでぐっときれいになった大阪湾を身近に感じてもらおうと、ダイバーたちが奮闘している。子どもたちに環境学習会で生き物を紹介したり、撮った写真を展示したりして海への関心を呼びかけている。映像を利用し長期的に海の変化を調べようとする動きもある。(小林裕幸、伊藤恵里奈)

約1キロにわたって砂浜が広がる。6月末、NPO法人「環境教育技術振興会」(大阪府



空缶の横に隠れるハオコゼを撮影する宮道成彦さん(左)ら。神戸市須磨区、伊藤恵里奈撮影

松原市)が開いた環境学習会

に、貝塚市立第五中学校の2

年生約70人が参加した。講師

は同会理事でダイバーの岩井

は同会理事でダイバーの岩井

代は大阪湾は汚れて泳げない

という印象を持っている。き

れいになった海と住民とを結

びつけない」と話す。

神戸市の須磨海水浴場を中

心に潜る「チームものすき」は

昨年結成された水中写真愛好

会だ。「生き物の赤ちゃんと

宮道成彦さん(45)らメンバー

が生まれるなんてびっくり

り」と目を輝かせた。

大阪湾の水質は、1980

年ごろまでは悪化の一途をた

どったが、排水に含まれる汚

濁物質の総量を削減する水質

総量規制などの取り組みで大

きく改善。大阪府環境農林水

産総合研究所によると、富栄養

化の指標になる水中の無機

窒素やリンの量は、兵庫県西

宮市や大阪市、堺市など湾の

奥部で、80年の5分の1に減

っている。

同会は7年前に結成。岩井

さんは「子どもたちの親の世